



よきかな若人

～飯綱山こそ われらが希望～

飯綱中学校相談メール iichu-soudan@edu.town.iizuna.nagano.jp

「不便だからこそ生まれるもの」

(2学期始業式 校長先生のお話より)

(前略)こんな方の体験談を紹介いたします。以前、話題になった話なので知っている人もいられるかもしれませんが、子どもが泣き出したことです。私は体調を壊し、週2回、中野坂上の病院に通院していました。

その日は今にも雪が降り出しそうな空で、とても寒い日でした。昼近くになって、病院の診察を終え、バス停からいつものようにバスに乗りました。座る席はなく、私は前方の乗降口の反対側に立っていました。車内は暖房が効いていて、外の寒さを忘れるほどでした。

間もなくバスは東京医科大学前に着き、ここでは多分、病院からの帰りでしょう。どこと、多くの人が乗り、あつという間に満員になってしまいました。

立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、先ほどの心地よさは一度になくなってしまいました。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの、火のついたような泣き声が聞こえました。私には見えませんが、ぎゅぎゅう詰めのバスと、人の熱気と暖房とで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく、泣く以外方法がなかったのだと思えました。

泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは新宿に向かい走っていました。バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りる時、後方から、「待ってください。降ります。」と、若い女の人の声が聞こえました。その人は立っている人の間をかきわけるように前の方に進んできます。その時、私は、子供の泣き声がだんだん近づいて来ることで、泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだと分かりました。そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとしますと、運転手さんは「目的地はここです

か？」と聞いています。その女性は気の毒そうに小さな声で、「新宿駅まで行きたいのですが、子どもが泣くので、ここで降ります。」と答えました。

すると運転手さんは、「ここから新宿駅まで歩いて行くのは大変です。目的地まで乗って行ってください。」と、その女性に話しました。

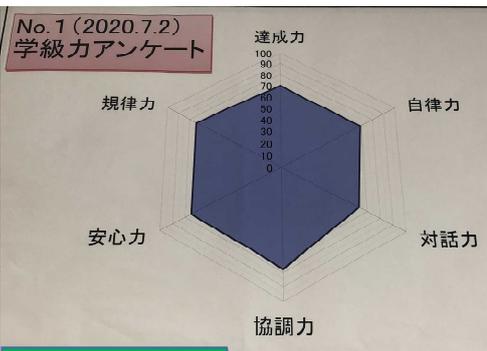
そして、急にマイクのスイッチを入れたかと思うと、「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いて皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は、泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行ってください。」と言いました。私はどうしていいかわからず、多分、みんなもそうだったと思います。ほんの数秒かが過ぎた時、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となったのです。若いお母さんは、何度も何度も頭を下げていました。

今でもこの光景を思い出しますと、目頭が熱くなり、ジーンとききます。私のとても大切な、心にしみる思い出です。

(中略)

2学期は爽りの2学期です。飯綱中学校の知恵と優しさで前向きな考え方を結集して確かな実をつけられるか、いつもとは違う少し不便な2学期の中で、私たちは試されているのかもしれない。

夏休み、90歳を超えるおばあさんと話す機会がありました。お年のわりに足腰がしっかりしている様子を見て「おばあちゃん。元気だね。」と声をかけるのと、「若い頃は車もないでしょう。まるで不便だったもんで、毎日2時間くらいかけて、あの山から下りてきちゃあ、田んぼやつてまた山に帰ったたんよ。おかげで、体は今でも頑丈だ。」と笑っていました。



対話力を上げるために・・・

- ・「いっせーの一で」作戦
- ・話し合い活動の充実
- ・意見を言いやすい雰囲気づくり
- ・相づち、聴く態度の改善

すれちがった人に
あいさつできた! 学校の
ルールを守って元気よく
過ごせた。
授業での発言をたくさん
することができました。

教室あれこれ 教室には生徒の成長を促し、意欲を高めるために様々な工夫があります。写真は2年3組の掲示物です。アンケートの結果と、課題克服に向けた「作戦」や1学期の成果が書かれた掲示がありました。

お願い
先日は、「飯綱町へのPTA要望書作成のためのアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。今後、飯綱町小学校PTAのアンケートもとりまとめ、PTA要望書を作成いたします。さて、飯綱町への要望とは別に、「車で送迎の際の一方通行が守られていないのでは」というご意見がいくつか寄せられました。駐車場でお子さんを降ろした後、左折すると、その先の道での車のすれ違いが難しく、また、生徒と接触する危険もあります。そこで、駐車場でお子さんを降ろした後は、右折して西側に向かっていただくよう、改めてお願いいたします。また、路上での乗降もご遠慮ください。

(文責 勝山)